

5年生のチョコレートが大人気

3日、阿佐ヶ谷駅や区役所などで、区立杉並第一小学校（阿佐谷北1-5-27）の5年生が、阿佐谷の魅力をパッケージに施したオリジナルチョコレートを販売しました。この取り組みは、昨年6月からスタートしたもので、地域の魅力をより多くの人に知ってもらおうとともに、社会のしくみを学ぶことを目的にしています。

2月3日午前10時30分、地元の商店街「パールセンター」には、「おいしいチョコはいかがですか」と子どもたちの明るい掛け声が響きました。これは、杉並第一小学校の5年生84名が、授業の中で取り組んでいる「私たちの街 阿佐谷を紹介しよう！」という学習の取り組みです。阿佐谷は、七夕まつりやジャズイベントが有名です。そのほかにも、学校に隣接する神明宮やクリスマスイルミネーションで彩られる駅前のメタセコイヤ、中杉通りのケヤキ並木も地域の魅力です。

これまで杉並第一小学校では、起業家教育の一環として、ものづくりとその製品の販売に取り組んできました。今回は、これまでの学習を生かして、街の魅力をオリジナルパッケージに施したチョコレートを販売しました。商品は、フルタ製菓の「セコイヤ」というウエハースをチョコレートでコーティングした菓子を5本セットにして、阿佐谷の街を紹介する



パッケージを付けました。また、この取り組みは、社会のしくみを知ることも大きな目的の一つにしている、商品づくりには、保護者、地域の方々から投資を受け、利益を還元することで、会社のことや起業についても学びます。会社なので、社長も副社長も5年生が務めています。しかし、5年生だけで会社を作ったり、パッケージづくりやチョコレートの価格交渉などすべてを行うことはできません。そこで、地域に住むイラストレーターや先生方の指導を受けながら、小学生が社長を務める「スマイル杉一カンパニー」が誕生しました。

2月3日午前10時30分、いよいよ小学生のチョコレートの販売です。販売場所は、商店街のほかに阿佐ヶ谷駅や区役所、小学校前の4箇所、それぞれ20名ほどが分担して一斉に販売を開始しました。一つ200円の商品が、合計1680個。果たして売れるのか、不安の中でのスタートでしたが、蓋を開けてみると、4カ所ともに10分足らずで完売の大人気となりました。